

# 田子の浦港の港湾統計

田子の浦港管理事務所 総務管理課

## 1 はじめに

「港湾統計」は、港湾の実態を明らかにし、港湾の開発、利用及び管理に資することを目的とした港湾に関する唯一の基幹統計調査の結果である。

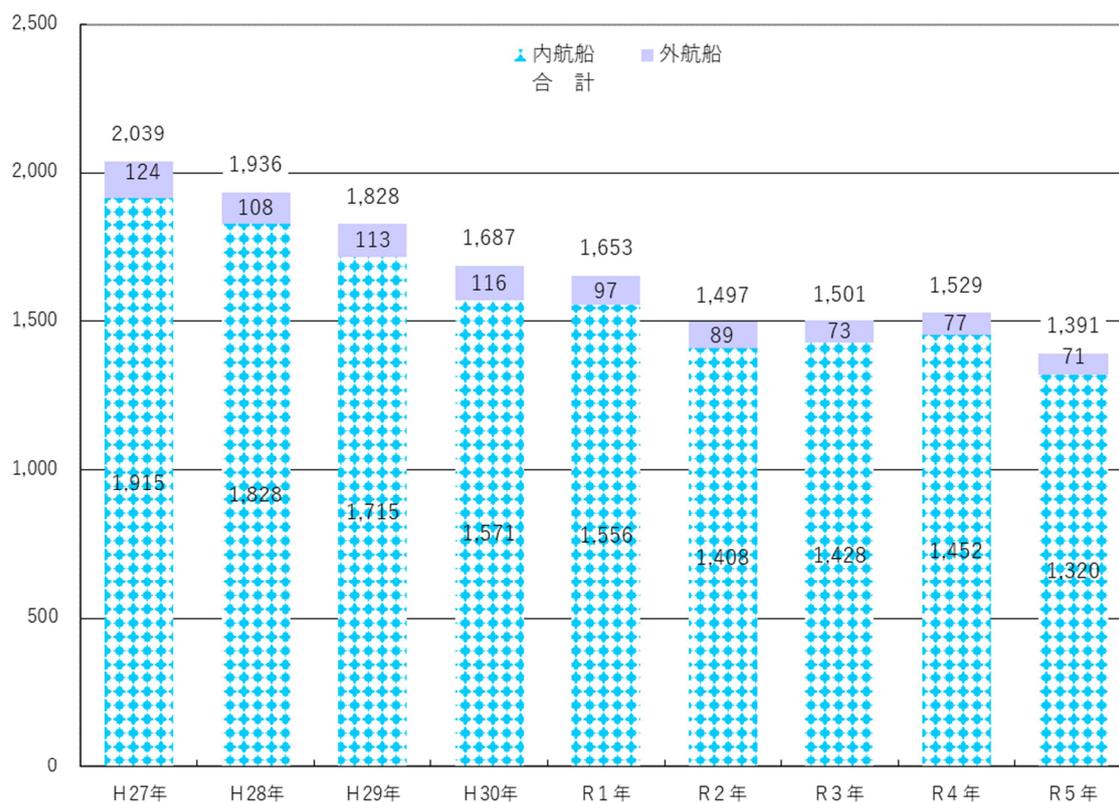
この統計を基に、田子の浦港管理事務所では、田子の浦港の概況を取りまとめた。

## 2 入港船舶

### 2-1 入港船舶数の推移

令和5年の入港船舶数は、外航船71隻、内航船1,320隻の合計1,391隻で、前年と比較すると、外航船は6隻(7.8%)の減少、内航船は132隻(9.1%)の減少、合計138隻(9.0%)減少した。

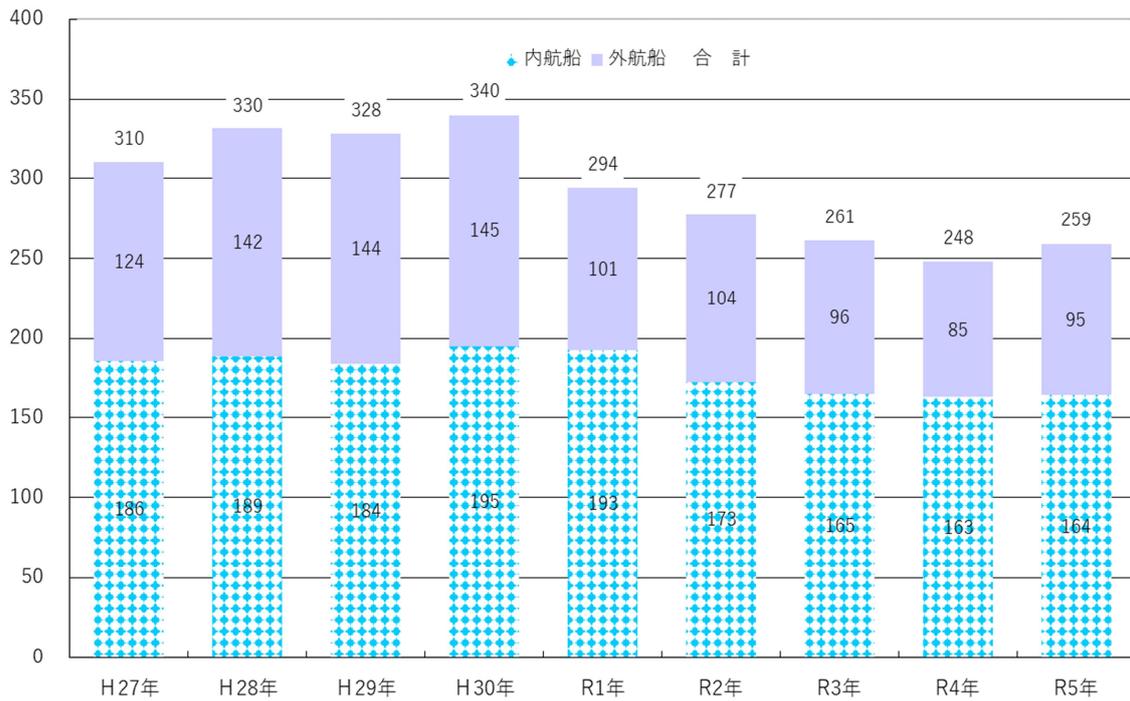
単位：隻



### 2-2 入港船舶総トン数の推移

令和5年の入港船舶の総トン数は、外航船950,176トン、内航船1,644,192トンの合計2,594,368トンで、前年と比較すると、外航船は99,572トン(11.7%)の増加、内航船は11,969トン(0.7%)の増加、合計111,541トン(4.5%)増加した。

単位：万トン

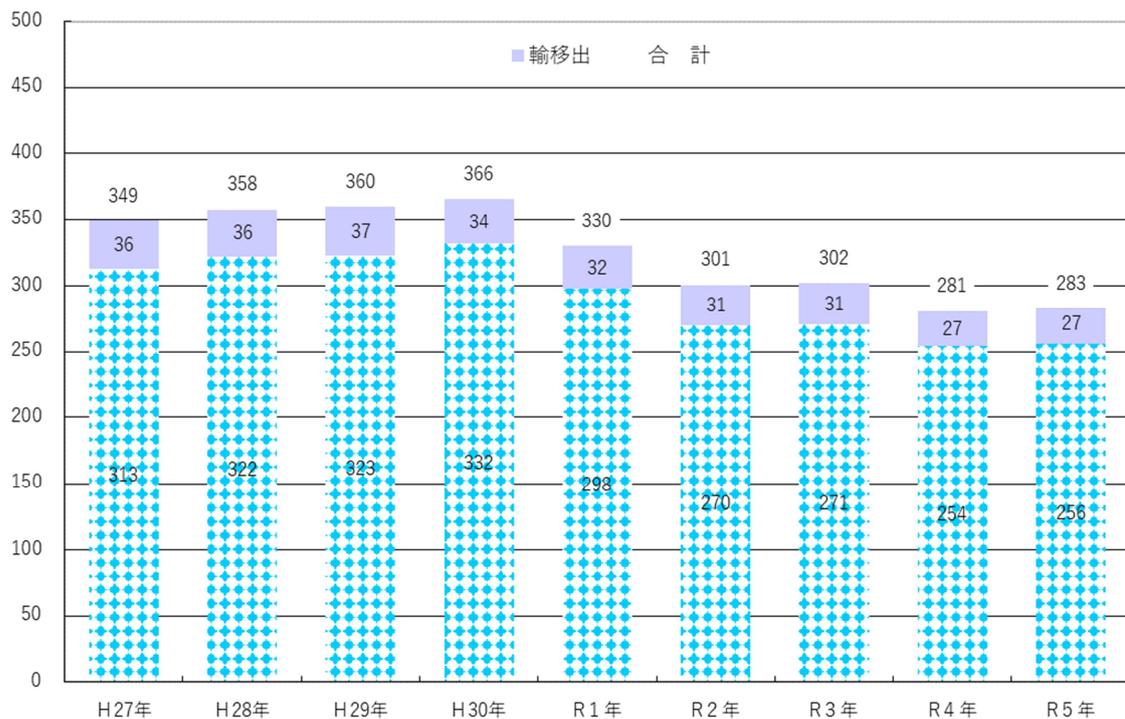


### 3 海上出入貨物

#### 3-1 海上出入貨物量の推移

令和5年の海上出入貨物量は2,834,055トンで、前年と比較すると、23,738トン（0.8%）増加した。

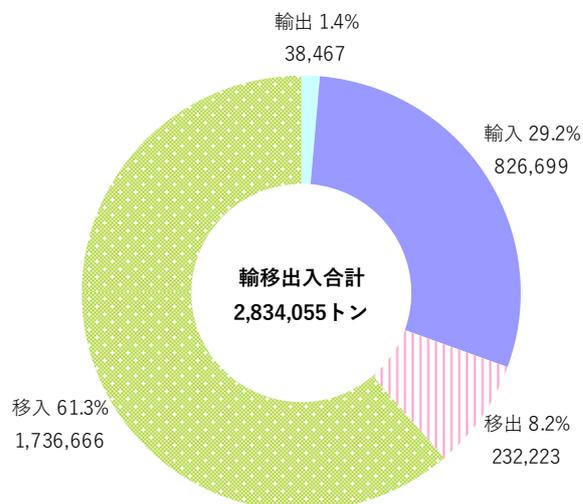
単位：万トン



### 3-2 海上出入貨物の構成

#### 3-2-1 輸移出入の割合

令和5年の海上出入貨物の構成は、移入が6割以上を占める。次いで輸入が29.2%、移出が8.2%、輸出が1.4%である。



#### 3-2-2 輸移出入別の推移

外貨貨物で見ると、輸出は38,467トンで、前年と比較すると、25,487トン（196.4%）増加し、輸入は826,699トンで、90,575トン（12.3%）増加した。

内貨貨物で見ると、移出は232,223トンで、23,816トン（9.3%）減少し、移入は1,736,666トンで、68,508トン（3.8%）減少した。

単位：千トン

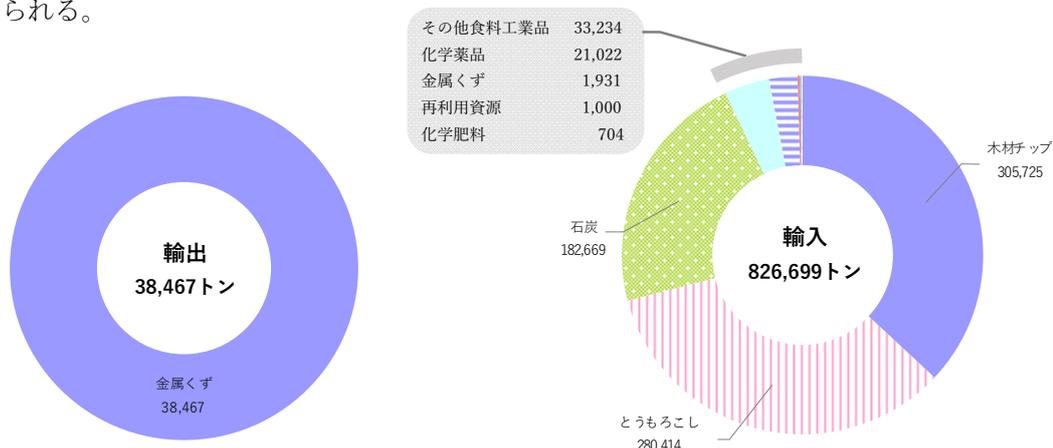


### 3-3 品種別

#### 3-3-1 輸出入の品種別構成

令和5年の輸出入では、輸出は金属くずのみで、前年と比較すると、25,487トン（196.4%）の増加であった。

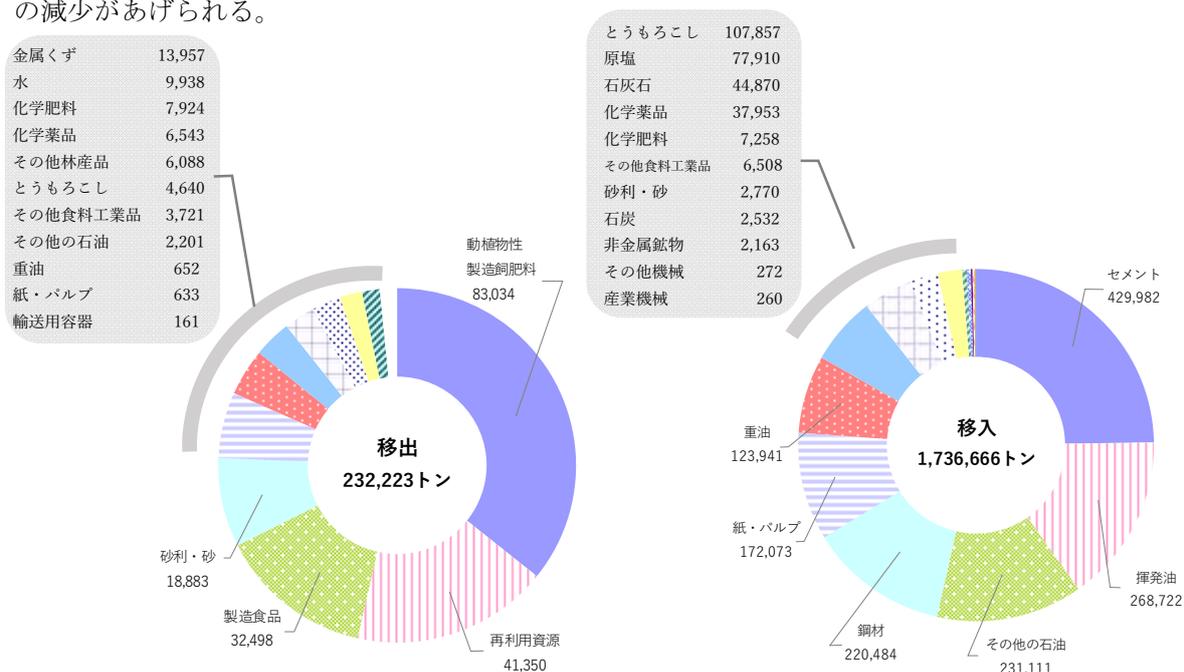
輸入は、木材チップ 219,051トン（252.7%）の増加、その他林産品 14,303トン（100%）、紙・パルプ 2,051トン（100%）、ゴム製品 1,400トン（100%）、金属くず 19,830トン（91.1%）の減少があげられる。



#### 3-3-2 移出入の品種別構成

令和5年の移出入を前年と比較すると、移出は、その他食料品 2,193トン（143.5%）、動植物性製造飼肥料 6,782トン（8.9%）、製造食品 1,728トン（5.6%）、化学薬品 261トン（4.2%）の増加、非金属鉱物 1,080トン（100%）、揮発油 801トン（100%）、重油 2,807トン（81.2%）、紙・パルプ 768トン（54.8%）の減少があげられる。

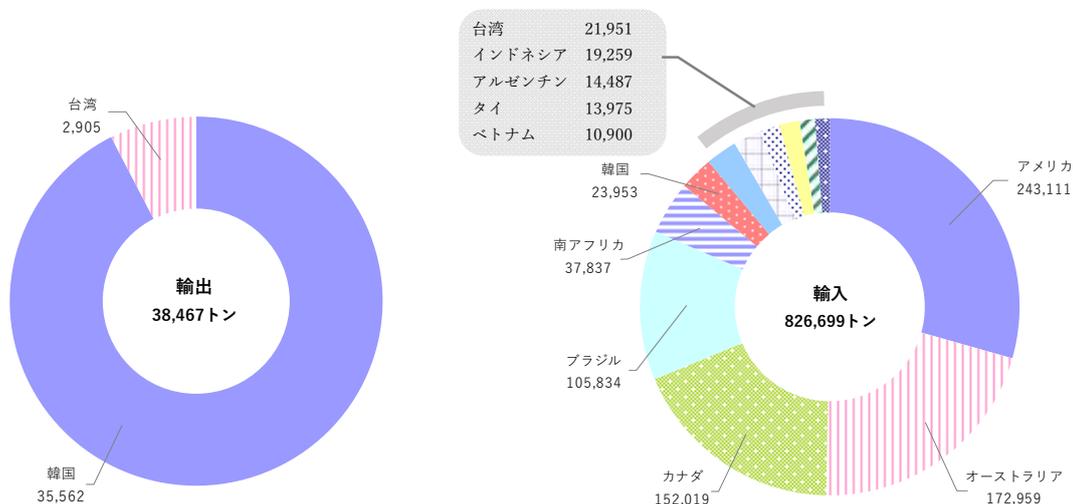
移入は、砂利・砂 1,170トン（73.1%）、石炭 1,032トン（68.8%）、その他食料工業品 1,306トン（25.1%）、とうもろこし 17,923（19.9%）の増加、その他林産品 10,944トン（100%）、再利用資源 2,221トン（100%）、動植物性製造飼肥料 1,147トン（100%）、化学肥料 3,136トン（30.2%）の減少があげられる。



### 3-4 国別

令和5年の輸出先は、韓国 92.4%、台湾 7.6%で、その品種はすべて金属くずである。

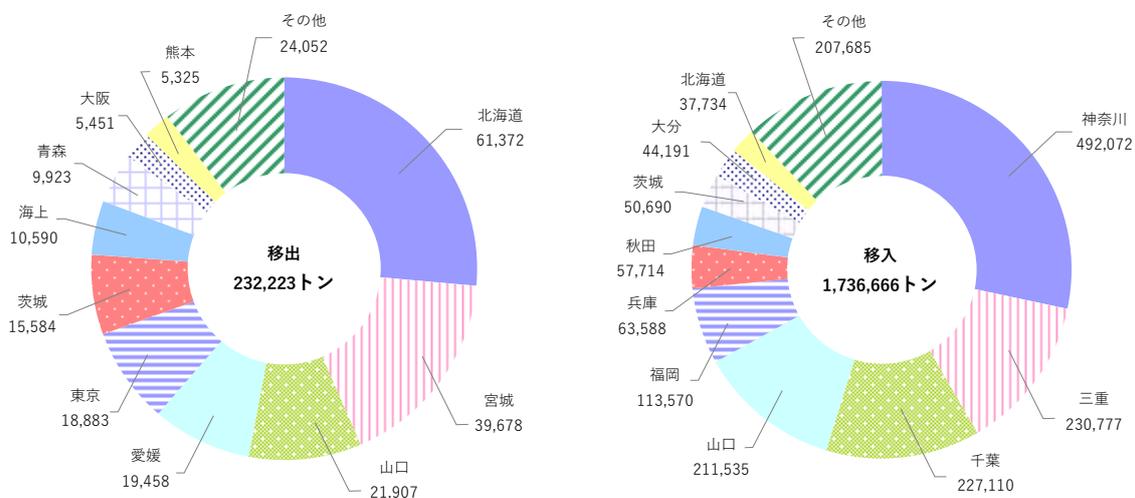
輸入先は、アメリカ 29.4%、オーストラリア 20.9%、カナダ 18.4%、ブラジル 12.8%などである。各国からの輸入品種は、アメリカはとうもろこし及び木材チップ、カナダは木材チップのみ、オーストラリアは石炭のみ、ブラジルはとうもろこしのみである。



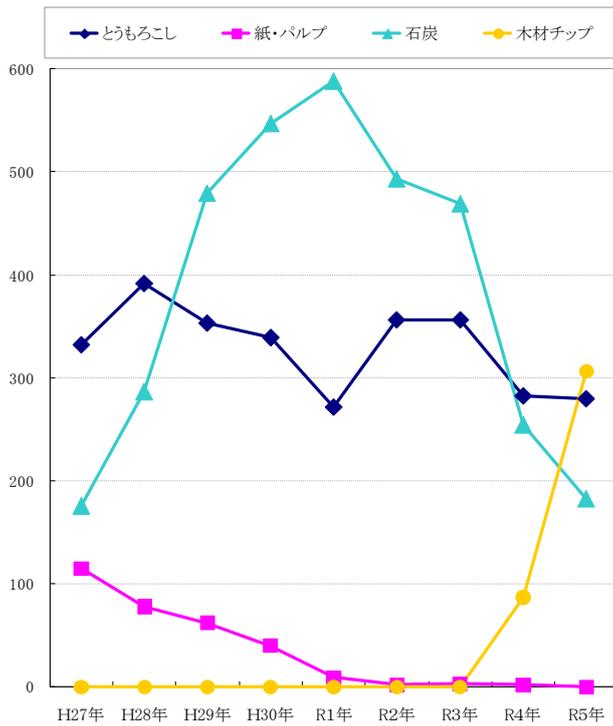
### 3-5 県別

令和5年の移出先は、北海道 26.4%、宮城県 17.1%、山口県 9.4%、愛媛県 8.4%などである。その主な品種は、北海道は 動植物性製造飼肥料、再利用資源、製造食品などの5品種、宮城県は 動植物性製造飼肥料、再利用資源、その他林産品の3品種、山口県は 再利用資源、金属くず、その他林産品などの4品種、愛媛県が製造食品のみである。

移入先は、神奈川県 28.3%、三重県 13.3%、千葉県 13.1%、山口県 12.2%などである。その主な品種は、神奈川県は 揮発油、その他の石油、原塩などの7品種、三重県は セメント、揮発油、その他の石油などの6品種、千葉県は 鋼材、その他の石油、揮発油などの8品種、山口県は セメント、化学薬品、鋼材などの5品種である。

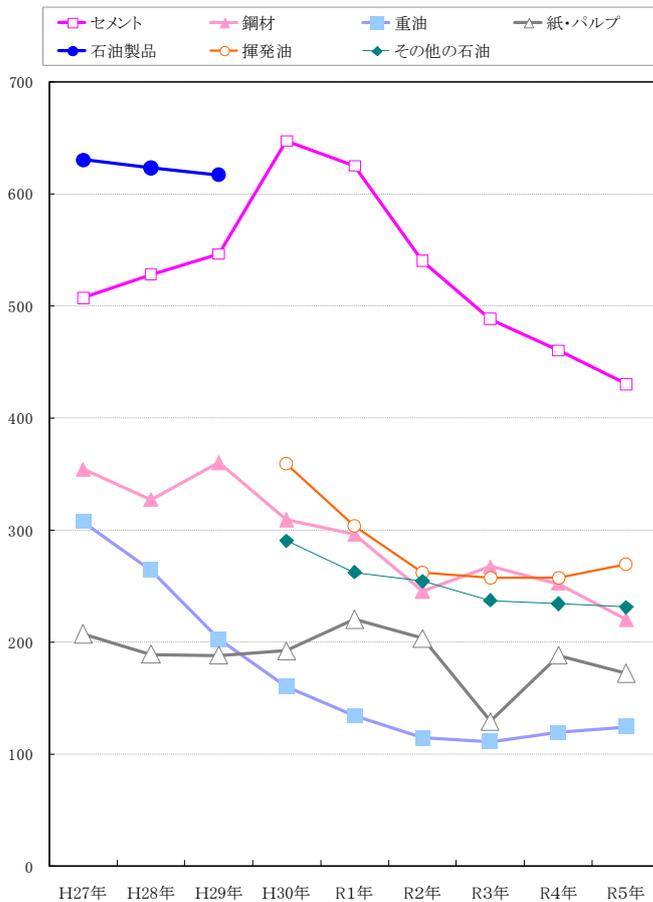


### 3-6 主要輸入品の年次推移



主要輸入品の過去9年間の推移は左のグラフのとおりである。前年と比較すると、木材チップのみ大きく増加し、ほかの品種は減少したものの、輸入量全体は90,575トン(12.3%)増加した。

### 3-7 主要移入品の年次推移



主要移入品の過去9年間の推移は左のグラフのとおりである。前年と比較すると、半数以上の品種が減少し、移入全体も68,508トン(3.8%)減少した。

※港湾調査規則改正により、平成30年から品種分類が変更。平成29年以前の「石油製品」は、平成30値年以降「揮発油」と「その他の石油」に分類されている。